本気に　元気に　根気よく

さんびょう
三錨

四日市市立富洲原小学校
学校だより　NO. 21
令和4年 9月 22日

●全国学力・学習状況調査等の結果と指導改善内容について（その２）

9月21日付学校だより『三錨』にて、「全国学力・学習状況調査(6年)」の結果をお伝えしました。今回は、そのなかにある「児童質問紙」について、そして、「みえスタディチェック(4.5年)」の「児童意識調査結果」からみえてきたことをお伝えします。

✧ 「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」といった基本的な生活習慣については、どの学年も全国や県と比べても、概ね同等であり、規則正しい生活を送れている子どもたちが多いことが読み取れます。

✧ 「普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピューターゲーム、携帯式ゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む)をしますか」の問いに対して、「30分～1時間」という回答が25%となっています。全国と比べると、全体的にゲームに関する利用時間が少ない子どもたちが多いことが明確になりました。しかし反対に、回答の中に「3時間以上」ゲームを行っているという子どもが4年生29%、5年生37%、6年生25%いる現状がみえてきました。

✧ 「普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか(学習する時間は除く)」という問いに対しても、「3時間以上」という回答が全体の20%を超えています。なかには、「4時間を超えている」と回答した子どもが1割を超えていることがみえてきました。

✧ 「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいるおとなに相談できますか」という問いに関しては、「はい」「どちらかというとはい」という肯定的回答の子どもの数が全国の数値を上回っています。しかし、なかには「いいえ」と回答した子どもも数名います。その点については、学校全体でしっかりと真摯に受け止め、子どもたちが話しやすい環境づくりに努めていきます。

✧ 「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどのくらいの時間、勉強しますか(塾等も含む)」という問いに対して、「1時間程度」と回答した子どもたちの人数がどの学年も一番多かったです。しかし、全国と比較すると約9ポイント下回っていることがわかりました。勉強時間が「2時間

以上」と回答をした子どもも4年生のなかで23%、5年生18%、6年生約16%いることも明らかになりました。反対に、「全くしない」と回答した子どもも、それぞれの学年にいます。毎日の復習が学力の定着につながります。もちろん、粘り強さにも影響します。子どもたちが18歳になったときの姿をイメージして「自分が今、なにをするべきか」「自分に今、なにができるか」を考えて取り組めるよう学校でも支援していきます。

今回の「三錨」No,20、No,21に示したように、4. 5.6年生の調査結果をふまえ、学校も子どもたちの「弱み」が克服され、「強み」が伸びるように授業改善等に取り組みます。主なポイントをお知らせします。

- 【授業改善】国語については「自分の考えを書き示す」「様々な文章を読む習慣を身につける」ための授業づくりが必要と考えます。ベーシックタイムでも「書くこと」を大切にします。

  算数については、基礎・基本の徹底はもちろんですが、発展的な問題にもしっかりと取り組ませていく必要があると考えます。その点から、再度、教職員の研修を深め、子どもたちに力がつくように取り組みます。

- 【家庭学習】家庭学習については少しずつ習慣化してきました。しかし、“力をつけるための家庭学習になっているのか”“この家庭学習の内容が子どもたちの学力向上につながっているのか”ということを常に検証し、そのうえで家庭学習の内容や質、さらに評価についてもきちんとしていく必要があると考えます。家庭学習につきましては、家庭との連携も必要になります。子どもたちの意欲喚起につながるような声かけ等、ご支援ご協力をよろしくお願いします。

- 【個別支援】学習状況が厳しい子どもたちには、家庭学習の内容をその子にあったものにしたり、算数の少人数授業でも習熟度別にしたりし、個々に応じた学習支援を今後も継続して行います。職員一丸となって、全力で「一人も取りこぼさない」を合言葉に手立てを講じていきます。

- 【安心できる場づくり】すべての教育活動の中で「安心」をキーワードに取り組みます。困っていること、悩んでいること、わからないことなどを教職員に話すだけでなく、子どもたち同士が互いに話すことができる場づくりに取り組みます。さらに「やればできる」「がんばってよかった」と子どもたちが実感できるように、子どもを認めたり評価したりする場面を設けていきます。